

富山県婦中町

砂子田 I 遺跡発掘調査報告 II

2005年3月

婦中町教育委員会

## 序

婦中町は富山県のほぼ中央に位置し、南北に走る具羽山丘陵によって平野部と山間地とに分けられています。西部は自然豊かな山々が連なり、そこから東へ振り返れば雄大な立山連峰を仰ぎ見ることができます。東部は井田川・神通川の豊かな流れで形成された平野が広がり、人々の食を支える豊かな水田地帯が広がっています。古来から人々にとってたいへん暮らしやすい場所であったようで、丘陵付近を中心に、県内でも屈指の埋蔵文化財の宝庫であることが知られています。

本書で報告する砂子田I遺跡は、現在は水田の真ん中に広がる古墳・奈良・平安・中世の集落遺跡です。この度、砂子田地内宅地造成事業に先立ち本調査いたしました。平成16年8月から10月にかけて、約2ヶ月にわたる調査では、奈良・平安時代の竪穴住居跡が4棟のほか溝や土坑など、当時の人々が生活していた証拠となる痕跡が見つかっております。また、平成14・15年度には、隣接する町道袋若葉台団地線新設工事に先立つ本調査を行い、やはり奈良・平安時代の建物跡や溝、須恵器や土師器など大量の遺物が発掘され、さらに時代は新しくなりますが、地震による噴砂の痕跡も確認することができました。当時の人々が、この辺り一帯をのびのびと活用していた様子がしのばれます。

本書は、本年度調査した成果をまとめたものであり、今後の調査研究を進める上で参考にしていただきますとともに、埋蔵文化財のご理解に少しでも役立てていただければ幸いと思います。

なお末筆ではありますが、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元砂子田地区の皆様をはじめ、株式会社グリーンステージ、佐藤工業株式会社北陸支店、及び関係各位に深く感謝申し上げます。

平成17年3月

婦中町教育委員会

教育長 井 上 亮 二

## 例　　言

- 1 本書は、富山県婦負郡婦中町<sup>フジタケシキ</sup>砂子田地内に所在する<sup>フジタケシキ</sup>砂子田工遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告である。
- 2 発掘調査は、砂子田地内宅地造成(事業主体㈱グリーンステージ)に先立ち、婦中町教育委員会の監理のもと、山武考古学研究所が実施した。
- 3 現地調査期間・面積は以下のとおりである。

平成16年度本調査 平成16年8月9日～平成16年10月15日(実働66日) 発掘調査面積 2472m<sup>2</sup>
- 4 現地調査・遺物整理・報告書作成業務の体制は以下のとおりである。

調査指導：婦中町教育委員会生涯学習課 主任 繁辻 嘉門  
現地調査・整理作業担当者：安藤 杜夫、福山 俊彰  
整理業務参加者：青山 三重子、池野 瞳恵、根本 晴子、田端 美智子
- 5 本書の執筆・編集は繁辻、福山が行った。文責は文末に記した。
- 6 現地調査・資料整理にあたっては、次の方々から有益なご教示と助言を得た。記して深く謝意を表したい。

折館 伸二、土生 朗治、三浦 京子、湯原 勝美
- 7 調査期間中、地元の方々及び次の諸機関に多大な協力を得た。記して厚く感謝申し上げたい。

街懇中町シルバー人材センター、㈱グリーンステージ、佐藤工業㈱北陸支店、  
㈱日本テクニカルセンター、㈲岩出写真スタジオ、㈲新成田総合社、㈲総合技研
- 8 出土遺物及び記録資料は婦中町教育委員会で保管している。

## 凡　　例

- 1 図で使用する方位は真北、水平基準は海拔高、経緯度の数値は世界測地系である。
- 2 遺構の略号は次のとおりである。

S I : 住居跡、S D : 溝、S K : 土坑、S P : ピット・柱穴
- 3 土色・土器胎土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修「新版 標準土色帖 2001年版」による。
- 4 平面図及び写真図版の遺物番号は、出土遺物実測図の番号と一致する。
- 5 遺物観察表は以下のとおりである。

「実測番号」欄は出土遺物実測図の番号と一致する。  
「口径遺存」「底径遺存」欄は、残存率を12分割した同心円でよみとった数値で表示してある。  
「胎土」欄は、「密・やや密・やや粗・粗」の4段階で示してある。  
「焼成」欄は、「良好・やや良好・やや不良・不良」の4段階で示してある。
- 6 出土遺物実測図版中の網掛け部分が示すものは、特に断りがない限り以下のとおりである。

赤彩 黒色処理 被熱痕 須恵器断面 縫 未
- 7 遺物写真図版の縮尺は統一していない。

## 本文目次

序文	
例言・凡例	
目次	
第1章 遺跡の立地と歴史的環境	1
第2章 調査に至る経緯と経過	3
1 調査に至る経緯	3
2 調査の経過	3
3 座標軸の設定	3
第3章 調査の概要	5
1 基本層序	5
2 遺構	5
3 遺物	14
第4章 まとめ	16
1 遺構について	16
2 遺物について	16
参考文献	17
写真図版	
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 周辺の遺跡分布図	第9図 器種分類図
第2図 調査区及びグリッド配置図	第10図 遺物実測図(1)
第3図 基本層序模式図	第11図 遺物実測図(2)
第4図 遺構配置図	第12図 遺物実測図(3)
第5図 S I 01遺物出土状況図・断面図	第13図 遺物実測図(4)
S I 01カマド遺物出土状況図・断面図	第14図 遺物実測図(5)
第6図 S I 02遺物出土状況図・断面図	第15図 遺物実測図(6)
S I 02カマド遺物出土状況図・断面図	第16図 遺物実測図(7)
第7図 S I 54・55遺物出土状況図・断面図	第17図 遺物実測図(8)
S D 56・57平面図・断面図	第18図 遺物実測図(9)
第8図 調整池部分南側X30~40Y26~41 遺構平面図・断面図	

## 表目次

表1 周辺の遺跡一覧	表4 遺物観察表(2)
表2 墓石・刻書土器一覧表	表5 遺物観察表(3)
表3 遺物観察表(1)	表6 遺物観察表(4)

# 第1章 遺跡の立地と歴史的環境

婦中町は富山県のほぼ中央、神通川の左岸に位置する。北は県庁所在地の富山市と接し、近年はベッドタウン化に伴い宅地開発等が著しい。地勢はおおまかに西の丘陵部と東の平野部に二分される。丘陵部は呉羽丘陵の南に連なり、丘陵裾部は一部が河岸段丘となる。平野部は神通川とその支流の井田川・山田川によって形成された扇状地である。

本書で報告する砂子田Ⅰ遺跡(1)は、富山県婦負郡婦中町砂子田地内に所在する古墳・古代・中世に至る複合遺跡である。東には神通川、西には井田川が流れ、湧水の激しい微高地に位置し、標高約15mを測る。遺跡の現況は主に水田・畑地である。

本遺跡南東約1.3kmには、毎年8月25日に奉納される稚兒舞で有名な熊野神社(2)が存在する。この神社は婦負郡内に7つある式内社に該当する可能性があり、伝承によると、もともと佐伯有頼が立山を開いて祭神を熊野大権現とし、以後熊野神社と称して来迎寺の僧が奉仕していた。久安二年(1155年)、立山薦の五智山円福寺が光明坊の時萩島に移り、為成都十七ヶ村の總社となった。歷代の住僧が熊野神社の別当職として奉仕し、光明山來迎寺と寺号を改めた後、富山市に移った。稚兒舞の由来は、その時に悪病が流行し、それを治めるために坪野村の豪農若林源左衛門が私財を投げ打って盛大な祭りを催し、その時に奉納した稚兒舞が起源であるといわれている。現在、稚兒舞は国重要無形民俗文化財に指定されている。この他、周辺の神通川左岸の微高地には熊野神社を中心に取り囲むようにして古代以降の遺跡が密集する。特に、中名Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ遺跡(3・4・5)、道場Ⅰ・Ⅱ遺跡(7・8)、持田Ⅰ遺跡(9)、清水島Ⅱ遺跡(11)では、平成6年度は婦中町教育委員会により、平成7年度から平成12年度にかけては富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所(以下財团)による、県営公害防除特別土地改良事業(カドミニウム汚染田復元事業)に伴う本調査が広範囲で行われた。その結果、この地域の古代から近世までの調査資料が蓄積され、特に中・近世の集落構造が解明されつつある。また、堀Ⅰ遺跡(10)では平成7年度の婦中町教育委員会による本調査で鎌倉から室町時代の配石墓や塙状の遺構が発見され、多数の蔵骨器が出土し、当時の埋葬の様子を良く残している貴重な遺跡として、平成10年に町史跡に指定されている。

本遺跡においても、平成12年度の財团による公特事業関連の本調査では堅穴住居跡3棟、柱穴、溝、土坑、集石遺構などが、平成13年度の公特事業関連の本調査と平成14・15年度の町道袋・若葉台団地線新設に先立つ婦中町教育委員会による本調査では奈良・平安時代の柱穴・土坑・溝などが確認され、平成14・15年度調査では墨書き器12点、70点以上の土錘など大量の遺物が出土している。

(續辻)

No.	遺跡名称	種別	時代	No.	遺跡名称	種別	時代
1	砂子田Ⅰ遺跡	集落	古墳・古代(奈良・平安)・中世	10	堀Ⅰ遺跡	墓	中世(鎌倉・室町)・近世
2	熊野神社			11	清水島Ⅱ遺跡	集落	中世(鎌倉・室町)・近世
3	中名Ⅰ遺跡	集落	古代(平安)・中世(鎌倉・室町・戦国)	12	袋遺跡	散布地	古代
4	中名Ⅱ遺跡	集落	中世(鎌倉・戦国)	13	輪坂Ⅰ遺跡	無構	古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
5	中名Ⅴ遺跡	集落	古代・中世(室町・戦国)・近世	14	輪坂寺跡遺跡	散布地	中世(鎌倉・室町)
6	中名Ⅵ遺跡	集落	古墳・古代(奈良・平安)・中世(鎌倉・室町・戦国)・近世	15	宮ヶ島Ⅱ遺跡	散布地	中世・近世
7	道場Ⅰ遺跡	集落	中世(室町・戦国)・近世	16	友坂遺跡	集落・城館	鐵文・古代(平安)・中世(鎌倉・室町)・近世
8	道場Ⅱ遺跡	散布地	中世(室町・戦国)・近世	17	杉原神社		
9	持田Ⅰ遺跡	集落	中世(鎌倉・室町)・近世				

表1 周辺の遺跡一覧



第1図 周辺の遺跡分布図 (1/20,000)

## 第2章 調査に至る経緯と経過

### 1 調査に至る経緯

婦中町砂子田地区は、西を井手川、東を神通川に挟まれた扇状地上の微高地に位置する。地区的北側は婦中町の中心施設地区と接しており、その間を国道359号線が通っている。近年富山市へのベッドタウン化が急激に進んでいる婦中町の中でも、平坦な土地がまとまって確保できること、道路網の整備が進んだことにより、富山市をはじめ県内各地への交通の便がよいことから、早くから住宅地の造成が進み、人口増加が進行している地区である。

砂子田地区に新たに宅地造成の計画が立てられた。計画を受けて、婦中町教育委員会では事前に埋蔵文化財の有無を確認し、保存措置を講ずる資料を得るために、平成9年9月22日から12月6日にかけて試掘調査を行った。調査対象面積は90,240m<sup>2</sup>、発掘面積は2,851m<sup>2</sup>である。また、平成10年6月24日から11月24日にかけて県営公害防除特別土地改良事業に伴う試掘調査を行った。試掘調査対象面積は127,000m<sup>2</sup>、発掘面積は5,507m<sup>2</sup>である。その結果、調査対象区のはば全域で奈良・平安時代のピット・土坑・溝等を確認し、古墳・奈良・平安・中世・近世の遺物が出土した。試掘調査結果は、当時開発を計画していた大洋不動産に通知された。  
(細辻)

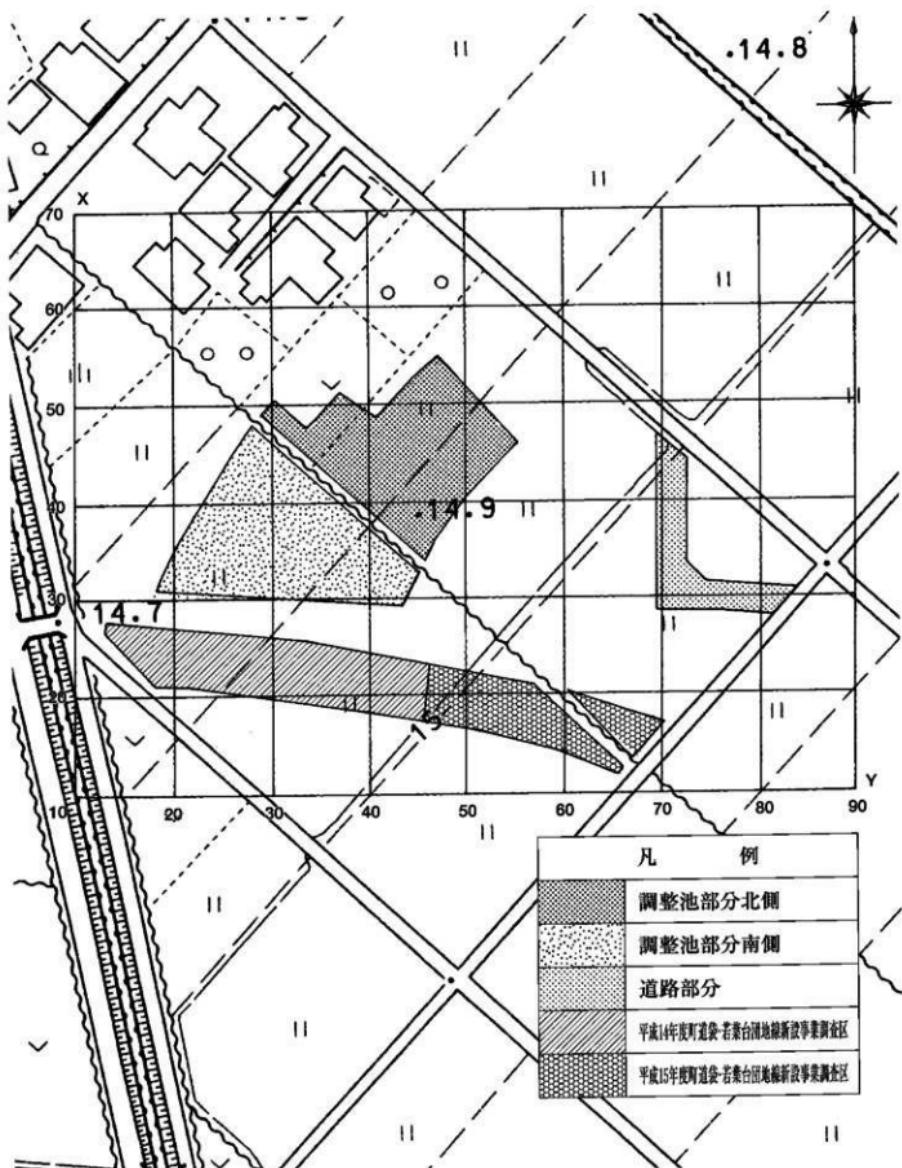
### 2 調査の経過

その後、砂子田地内宅地開発計画は株式会社グリーンステージ(以下主体者とする)に引き継がれ、主体者と婦中町教育委員会は平成16年5月より協議を重ねた。その結果、平成9・10年度に行った試掘調査結果から、第1期工事部分のうち調整池部分2,137m<sup>2</sup>と道路敷部分335m<sup>2</sup>、合計2,472m<sup>2</sup>については、工事によって埋蔵文化財の破壊が避けられないことから、本調査による記録保存を行うことに決定した。しかし、町直営で本調査を行うにあたり、充分な体制がとれないため、発掘調査は民間発掘調査会社に委託すること、婦中町教育委員会が調査の監理を行うことで合意した。その協定書を婦中町教育委員会と主体者との間で平成16年7月12日締結した。これを受けて、有限会社山武考古学研究所が婦中町教育委員会立会いのもと、8月9日よりバック・ホウによる調整池部分南側の表土剥ぎを開始した。8月17日に調整池部分南側の表土剥ぎを終了し、調整池部分北側の表土剥ぎを開始した。人力による掘削は8月19日より開始した。8月20日に調整池部分北側の表土除去作業を終了し、道路部分の表土剥ぎを開始した。8月21日にグリッド杭及びBMを設置し、8月23日に表土剥ぎを終了した。途中、記録的な数の台風上陸による風雨と激しい湧水に悩まされながら調査を進め、10月7日より遺跡全体測量を開始し、10月14日ラジコンヘリによる空中撮影を株式会社日本テクニカルセンターに委託して行った。10月15日に基本土層調査を行い、現地調査を完了した。

遺物はコンテナに40箱出土した。現地事務所にて各調査区・グリッド・遺構別に分類・収納し、平成17年2月1日より千葉県成田市に所在する山武考古学研究所にて洗浄、バインダー処理、注記作業を行い、その後引き続き接合、復元作業を行った。  
(細辻・福山)

### 3 座標軸の設定

調査の基準となる座標軸は平成14・15年度調査区の座標軸を延長して設定を行った。国土地理院設定の第VII座標系公共座標のうち、X = 72,400、Y = -850を原点として、南北軸をX軸とし、X = 0から北方向に進むにしたがってX座標の数値が増える。同様に東西軸をY軸とし、Y = 0から東方向に進むにしたがって、Y座標の数値が増える。1グリッドの区画は2m × 2mを1単位とし、調査区の範囲は、調整池部分がX = 29~55、Y = 18~56、道路部分がX = 28~47、Y = 69~85となる(第2図)。  
(福山)

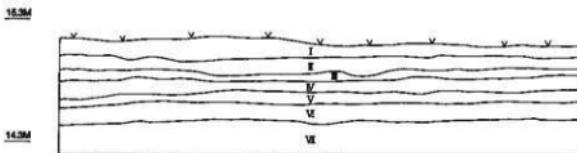


第2図 調査区及びグリッド配置図 (1/1,000)

## 第3章 調査の概要

### 1 基本層序

基本層序は平成14・15年度調査区と基本的に同様で、上からⅠ層：耕作土、Ⅱ層：暗灰黄色砂質シルト+サビ・炭化物(現水田床土)、Ⅲ層：黒褐色粘質シルト(現水田基盤層)、Ⅳ層：黒色粘質土+有機物混(旧水田耕作土)、Ⅴ層：オリーブ褐色シルト+炭化物・有機物混(遺物包含層)、Ⅵ層：オリーブ褐色シルト粘性Vより強(漸移層)、Ⅶ層：暗オリーブ色砂質シルト(地山、遺構検出面)、Ⅷ層：灰色細砂～粗砂(基盤層)になり、Ⅷ層下位には水を含む礫層が確認されている(第3図)。調査区一帯は平らな水田であるが、僅かに東から西に向かって傾斜し、調整池部分の調査区中央を流れる現用水路も東南から北西方向に流れている。



第3図 基本層序模式図 (1/40)

### 2 遺構

調査によって検出された遺構は、竪穴住居跡4棟(S I 54はカマドのみ遺存)、土坑6基、溝13条、ピット34基と近世以降と思われる噴砂跡3条である。古代の遺構は調整池部分南側と道路部分に集中し、調整池部分北側は皆無であった。以下、各遺構について記述する。

#### 近世以降の遺構(第4図)

この時代の遺構としては調整池部分南側で検出された噴砂跡3条がある。明確な時期は特定されないが、平成14・15年度調査区においても同様の噴砂跡が検出されており、近世以降のものと判断した。

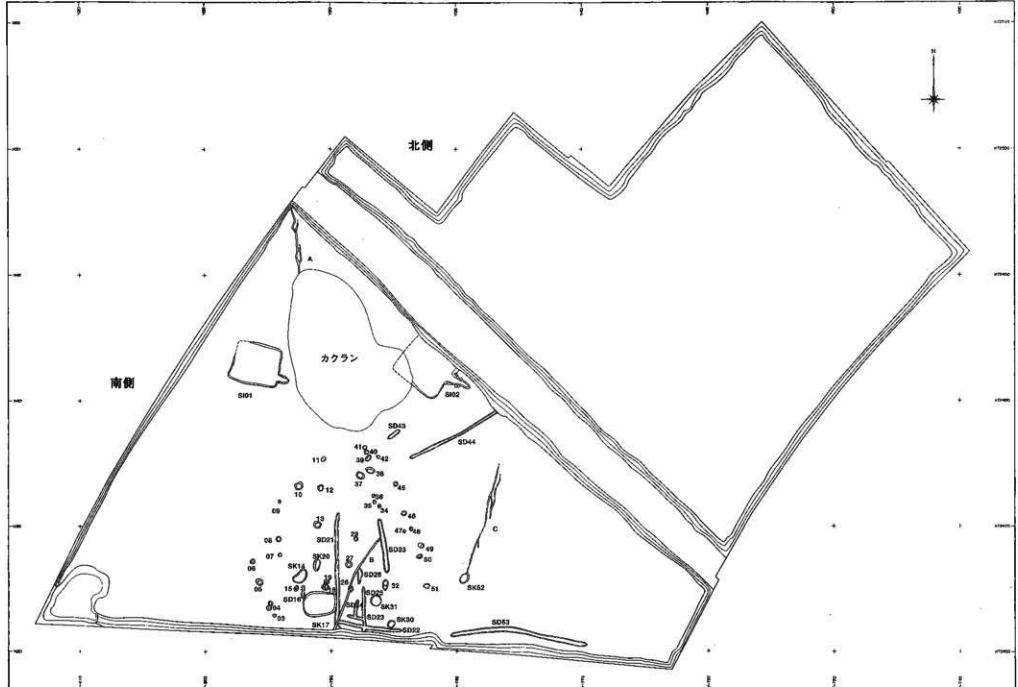
噴砂Aは長さ6.0m、幅20cmを測り、調査区外北方向に延びている。噴砂Bは長さ8.8m、幅18cmを測り、調査区外南方向に延びている。噴砂Cは幅10cm以下の狭小な砂脈が集合したもので長さ9.1mを測る。方向は噴砂Aが北→南、噴砂B・Cが北北東→南南西方向に走行し、調査時にはいずれも激しい湧水があった。また、固形化はできなかったが、調査区内で多数確認されている幅の狭小な砂脈も激しく湧水していた。

#### 古代の遺構

S I 01(第5図) 調整池部分南側X40~42Y26~28に位置する。平面形態は東西方向に長軸を持つ長方形を呈し、北西隅部は耕作・擾乱により消失していた。長辺3.9m、短辺3.4m、深さ14cmを測り、主軸方位はN70°Wとなる。覆土は砂と炭化粒を少量含む緑灰色シルト質土の單層。カマドは遺物包含層削削中に構築材の川原石と土師器壺が露出して確認された。東側壁の南東隅部に寄った位置に付設され、煙道は竪穴外に90cm延びている。覆土は緑灰色シルト質土を基調として3層に分層され、燃焼部には炭化粒を多量に含む黒色シルト質土があった。袖から煙道にかけて左右4個づつ並列して設置された8個の川原石が遺存し、竪穴内の燃焼部からは完形の土師器壺が煙道方向に倒れた状態で出土している。床面から柱穴・貼床は検出されなかった。遺物はカマドから完形の土師器壺A(1・2)、覆土からは土師器小型壺A(3)、壺底部(4)などが出土している。

S I 02(第6図) 調整池部分南側X40~42Y32~35に位置する。平面形態は長方形を呈すると思われるが、北側が調査区外になり、西側隅部も擾乱で消失しているため不明瞭である。遺物分布範囲から想定される規模は、北西→南

調整池部分



噴砂-A~C  
SP-番号のみ表示

(1/300) 0 1 20M

第4図 遺構配置図 (1/300)

東方向で4.2m前後、深さは最大で10cmを測る。調査時には激しい湧水があり、柱穴・貼床は検出されなかった。覆土は砂と炭化粒を少量含む緑灰色シルト質土の単層。カマドは遺物包含層掘削中に構築材の川原石が露出して確認された。南東側壁に付設され、煙道はN60°W方向に軸を持ち、竪穴外に170cm延んで突出する。覆土は緑灰色・オリーブ色を基調としたシルト質土で5層に分層され、燃焼部には炭化粒を多量に含む黒色シルト質土がある。袖から煙道にかけて左右に設置されている川原石は、間延びした状態で検出されており、脆弱な地盤のために後世になって自然に動いた可能性がある。遺物はカマド及びカマド周辺から須恵器杯B(6)、横瓶(7)、土師器鍋(10)などが出土し、住居推定範囲内には須恵器杯蓋C(5)、長頸壺(8)、土師器壺B(9)などの須恵器片・土師器片が散在していた。

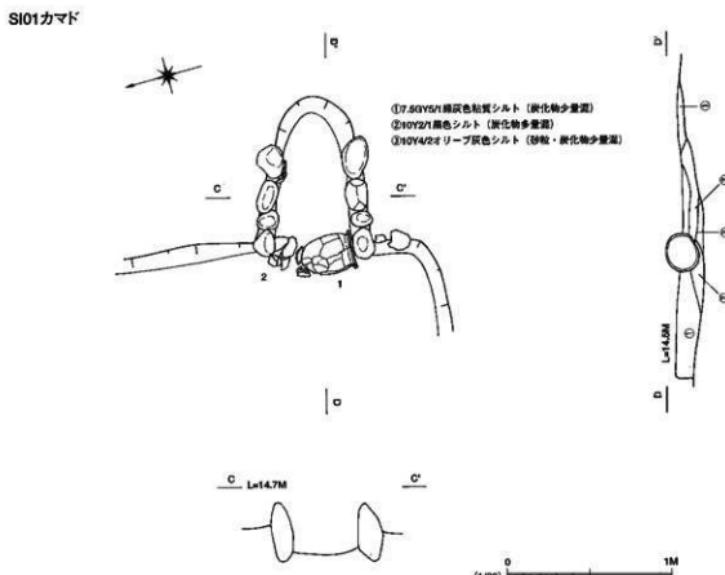
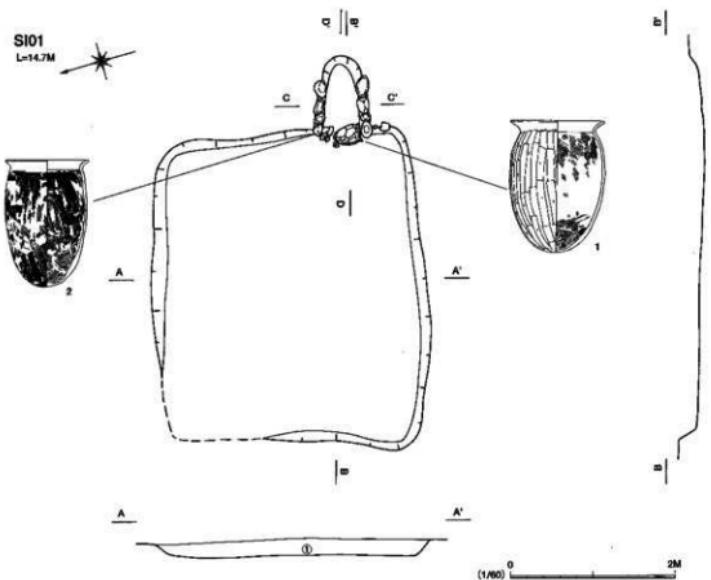
S I 54(第7図) 道路部分X44Y71に位置する。U字状に組まれた川原石とその中心部から支脚と思われる石が検出されたもので、掘り込みは確認されなかったが、竪穴住居のカマドである可能性が高いと判断した。カマドの方向はN70°Eを軸とする。遺物は土師器壺C(11・12)が出土している。

S I 55(第7図) 道路部分X29~31Y70に位置する。平面形態は西側が調査区外になるが、長方形基調と思われる。現状では長辺3.4m以上、短辺2.4m以上、深さは20cmを測り、主軸方向はN38°W方向と思われる。覆土は砂・炭化粒を少量含む暗緑灰色シルト質土の単層。カマドは南東側壁に付設され、竪穴外に70cm延びる煙道には4個の川原石が煙道壁に沿って設置されている。覆土は暗緑灰色シルト質土で、燃焼部には炭化粒を多量に含む黒色シルト質土があり、直上に潰れた状態で遺物が出土している。遺物はカマド燃焼部及びカマド周辺から土師器壺A(14)、鍋(16)、須恵器鍋(17)、覆土から須恵器杯A(13)と土師器壺底部(15)などが出土している。

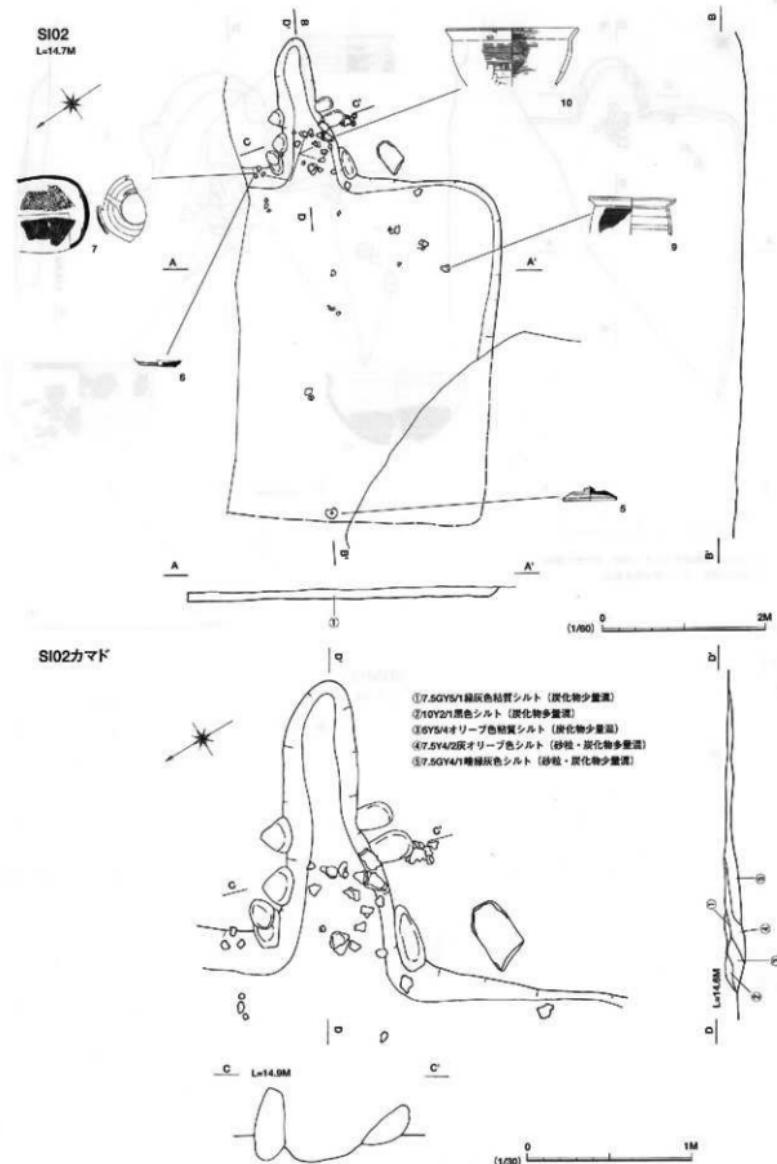
調整池部分南側X30~40Y26~41溝群(第8図) 東西方向に走行する溝が2条(S D22・53)、それにはほぼ平行する短い溝が1条(S D23)、南北方向に走行する溝が3条(S D21・25・33)、それに平行する短い溝が3条(16・24・28)、南西~北東方向に走行する溝が1条(S D44)、それに平行する短い溝が1条(S D43)、計11条の溝が検出され、X31Y31~32付近では溝の交差・T字状の交わりがみられる。緩く湾曲するS D53以外はほぼ直線的に走行し、幅は20~40cm、深さは10cm前後から最大で20cmを測り、長短はあるが、ほぼ同様の形態を有している。覆土も類似しており、緑灰色~オリーブ灰色を基調とするシルト質土の単層である。遺物は少量の須恵器・土師器の小破片が覆土中から出土しているが、図示できるものは出土していない。性格としては耕作に関するものであると思われ、平行して走行し、T字・十字状に交わることから、耕作に伴う区画的なものである可能性も考えられる。

調整池部分南側X31~38Y26~33土坑・ピット(第8図) 土坑はX31~33Y28~33内に5基(S K14・17・20・30・31)、X32Y35から1基(S K52)が検出され、ピット34基はX31~38Y26~33内に不規則な配置で点在している。土坑の内、S K20・24・52は不整椭円形状、S K30・31は円形を呈し、掘り込みは10~20cmを測る。覆土はいずれも砂・炭化物を少量含む灰色~オリーブ灰色を基調とする粘質シルト質土の単層。大型のS K17は東西方向に長軸を持つ隅丸長方形を呈し、長軸2.7m、短軸1.5~2.0m、深さは20cmを測る。覆土は炭化物を少量含む緑灰色粘質シルト質土と、炭化物・砂を全体に含む暗オリーブ灰色粘質シルト質土の2層に分かれる。遺物は土坑・ピットいずれも覆土中から少量の須恵器・土師器の小破片が出土したに留まり、図示できるものは出土していない。土坑・ピットとともに溝群の周辺に集中しており、溝群と同時期に存在したものである可能性が高い。

S D56・57(第7図) 道路部分X33~35Y71~72に位置する。緩く湾曲して南北方向に走行するS D56は、調査区外北側に延び、幅30~40cm、深さ8~12cmを測り、北側がやや深い。S D56とT字状に交わり東西方向に走行するS D57は幅30cm前後、深さ10cmを測り、調査区外東側に延びている。覆土はともに砂を少量含む緑灰色シルト質土の単層。遺物は出土していない。形状は調整池南側から検出された溝群とほぼ同様であるが、一部のみの検出で同様の性格を持つものかは不明である。



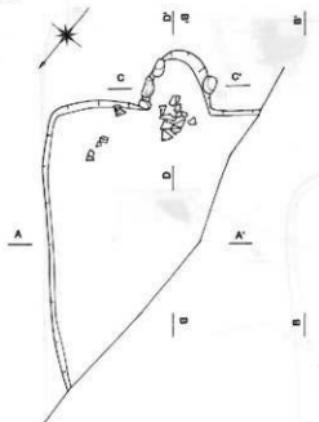
第5図 SI01遺物出土状況図及び断面図(1/60), SI01カマド遺物出土状況図及び  
断面図(1/30), 主な遺物の出土位置(1/12)



第6図 SiO<sub>2</sub>遺物出土状況図及び断面図(1/60),SiO<sub>2</sub>カマド遺物出土状況図及び断面図(1/30),主な遺物の出土位置(1/12)

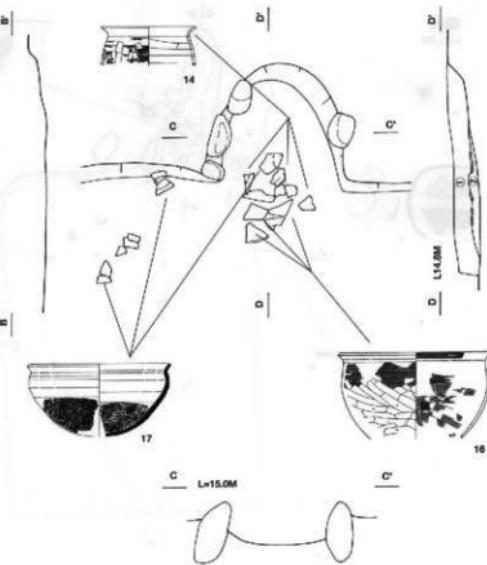
SI55

L=15.0M



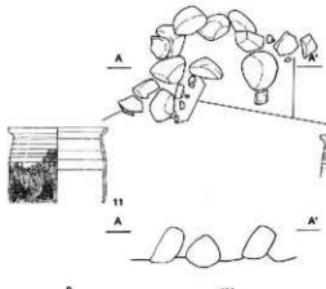
- ① 7.5GY4/1褐色灰色シルト (砂粒・炭化物少量層)  
② 10Y2/1黒色シルト (炭化物多量層)

SI55カマド



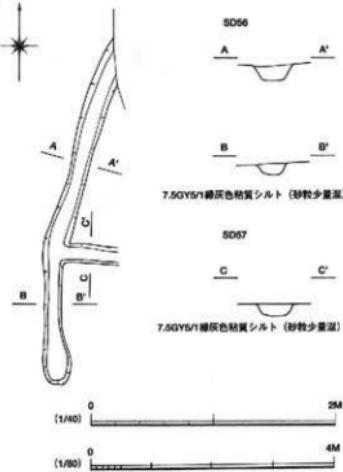
SI54カマド

L=15.0M

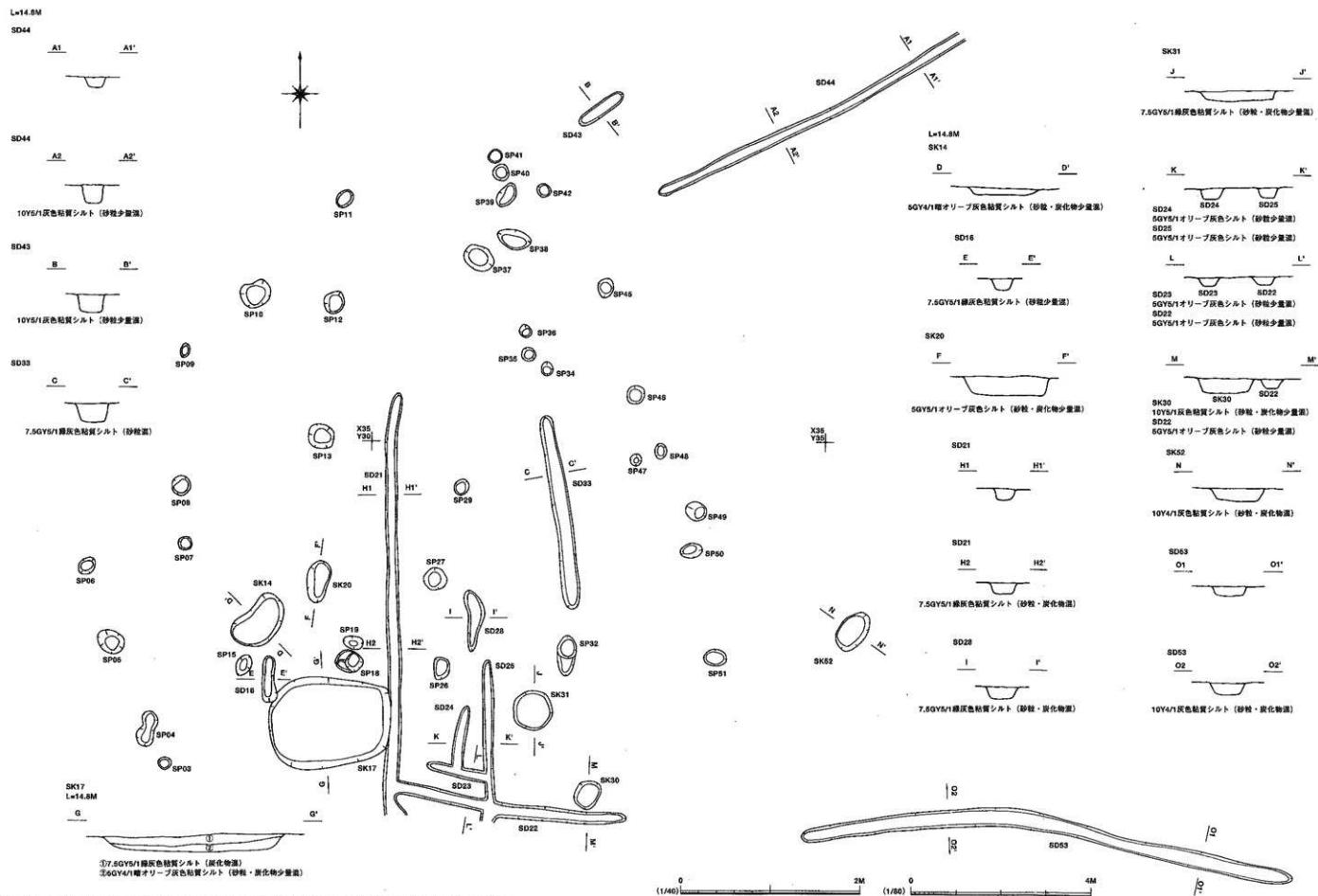


SD56・57

L=15.0M



第7図 SI54カマド遺物出土状況図及び断面図 (1/30), SI55遺物出土状況図及び断面図 (1/60), SI55カマド出土状況図及び断面図 (1/30), 主な遺物の出土位置 (1/12), SD56・57平面図 (1/80) 及び断面図 (1/40)



第8図 調整池部分南側X30~40Y26~41構造平面図(1/80)及び断面図(1/40)

### 3 遺物

器種別形式分類(第9図)は、平成14・15年度調査の砂子田I遺跡発掘調査報告(2004 婦中町教育委員会)に準じて作成した。個別の遺物については観察表を参考にしていただきたい。なお、須恵器杯A 3・4類、土師器甕C 1類については、今回の調査において図示できる良好な資料がなく分類のみ示している。

須恵器 出土した器種は、杯蓋、杯、高杯、壺蓋、短頸壺、長頸壺、双耳壺・瓶、甕、鍋、横瓶、円面鏡等がある。

(杯蓋) A類：口縁端部にかえりを持つもの。

B類：口縁端部が断面三角形を呈するもの。

C類：口縁端部が内に屈曲するもの。さらに屈曲が強いものをC 1、屈曲が弱いものをC 2とする。

D類：口縁端部を内側に巻き込むもの。

E類：口縁端部を丸くおさめるもの。

(杯) A類：高台がつかないもの。

A 1：体部が外側上方に立ち上がるもので、底部と体部の境が丸いもの。

A 2：体部が外側上方に立ち上がるもので、底部と体部の境が角張るもの。

A 3：器高が低く口径が大きいもので、底部と体部の境が丸いもの。

A 4：器高が低く口径が大きいもので、底部と体部の境が角張るもの。

A 5：体部が大きく外傾するもの。

A 6：皿型を呈するもの。

B類：高台がつくもの。

B 1：体部が外側上方に立ち上がるもので、底部と体部の境が丸いもの。

B 2：体部が外側上方に立ち上がるもので、底部と体部の境が角張るもの。

B 3：器高が低く口径が大きいもので、底部と体部の境が丸いもの。

B 4：器高が低く口径が大きいもので、底部と体部の境が角張るもの。

B 5：器高が高く大型のもの。

B 6：金属器模倣と思われるもの。

土師器 出土した器種は、碗、皿、小型甕、壺、鉢、鍋、瓶等がある。

(小亞甕) A類：口縁端部を丸くおさめるもの。端部が直線的に伸びるものと、外反するものがある。

B類：口縁端部を面取りするもの。端部が肥厚するもの、沈線が入るものもある。

C類：口縁端部が上方に伸びるものとCとする。

(甕) A類：口縁端部が外反し丸くおさめるもの。体部がやや膨らむものと、直線的に立ち上がるものがある。

B類：面取りした口縁端部が断面四角形を呈するもの。端部が肥厚するもの、沈線が入るものがある。

C類：口縁端部を内側に巻き込むもの。

C 1：口縁端部を内折させ段がつくもの。

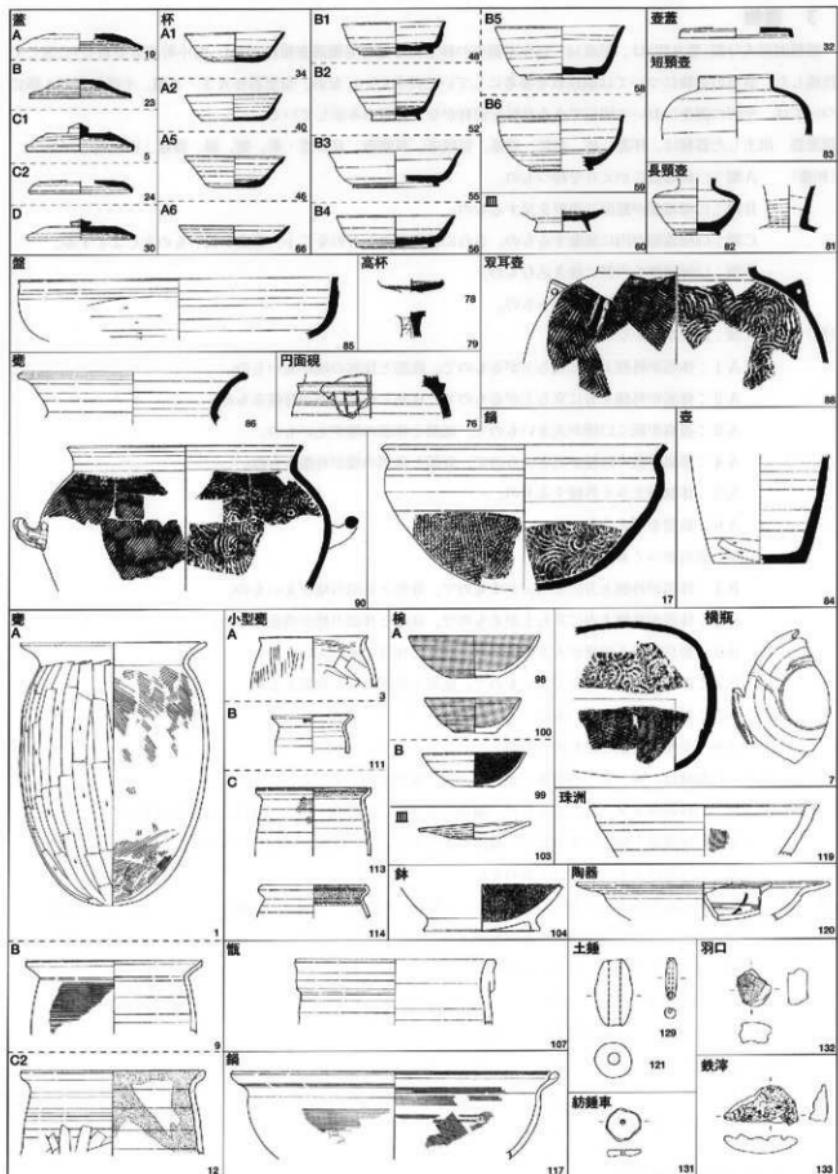
C 2：口縁端部が折り畳まれ丸く成形するもの。

(碗) A類：黒色処理しないものの赤彩するものもある。

B類：黒色処理するもの。

その他、土製品では37点の土鍤がある。遺物の大半が奈良・平安時代の須恵器・土師器で、他には土製紡錘車、羽口破片、鉄滓、中世珠洲焼、中・近世陶磁器等が少量出土している。

(福山)



第9図 器種分類図 (90は1/8, その他は1/6)

## 第4章 まとめ

今回の砂子田Ⅰ遺跡の調査では、調整池部分、道路部分合せて2,472m<sup>2</sup>の発掘調査を行った。その結果、奈良・平安時代の遺構・遺物と近世以降の噴砂が検出され、隣接する平成14・15年度調査の成果を追認・補足する資料が得られた。最後に、検出された遺構と遺物について補足の説明を加えて調査のまとめとしたい。なお、遺構番号は第3章で記したもの、遺物の番号は遺物実測番号と一致する。

### 1 遺構について

調査で検出した遺構は、堅穴住居跡4棟、溝、土坑及び柱穴状のピットなどである。出土した遺物から8世紀～9世紀代に中心を持つと考えられる。堅穴住居跡はいずれもカマドの構築材に川原石を用い、主軸方向は南東～北西方指向をしている。時期はS I 01・02・55が8世紀後半、S I 54は9世紀後半の所産と思われる。掘り込みが確認されたS I 01・02・55では、砂質土層まで掘り込まれているためか、貼床・柱穴等は検出されなかったが、カマド燃焼部からは炭化粒を多量に含む黒色土が検出されており、明瞭に住居跡と判断された。同様の石組施設を有するS I 54でも、掘り込みは確認出来なかつたが住居跡と判断した。平成14・15年度調査においても住居跡の可能性が高い上坑が検出されており、今回の調査によって当地区に散発的ではあるが住居跡が存在し、集落の一部として機能していたことが確認されたといえよう。調整池南側から検出された溝群は耕作もしくは耕作に伴う区画目的のものであると思われ、溝群の周辺に不規則に存在する土坑と柱穴状のピットも溝群に伴うものと考えられる。また、平成14・15年度調査区にも同様の溝・土坑・ピット群が続いていることから、耕作地の縁辺部に堅穴住居及び掘立柱建物が点在している状況を感じられる。今後の周辺調査によって、より明確な集落形態が浮かび上がる可能性があり、調査の進捗に期待したい。

### 2 遺物について

今回の調査では7世紀末～中・近世に亘る遺物整理箱40箱分の遺物が出土した。調整池部分南側で23箱、調整池部分北側で2箱、道路部分で15箱が出土し、遺構の集中する調整池部分南側よりも面積の狭い道路部分の遺物密度が最も高い状況であった。出土遺物は8世紀～9世紀代の須恵器・土師器が大部分を占めているが、8世紀後半～9世紀代を主体とする調整池部分に対し、道路部分は9世紀後半の遺物が目立つ後出の様相を呈している。16点出土した墨書き土器(61～75・100)と刻書土器(101)、円面鏡(76)も、1点(62)を除き全て道路部分からの出土であり、8世紀代には少ない墨書き土器が9世紀代になって増加することを肯定する出土状況であった。墨書き土器は平成14・15年度調査においても「田屋」墨書きを含む墨書き土器と転用鏡・円面鏡など12点が出土しており、出土点数も多いことから、今回の出土資料の特徴をまとめておきたい。

実測番号	種別	器種	部位	位置	墨書き文字	出土地点・層位	実測番号	種別	器種	部位	位置	墨書き文字	出土地点・層位
61	須恵器	壺D	蓋内	左	「秦ヶ」	X38Y71V層	70	須恵器	杯B1	外底	左	「門」	X37Y71V層
62	須恵器	杯A2	外底	左上	「高」	X31Y38V層	71	須恵器	杯B1	外底	中央	「秦ヶ」	X30Y75V層
63	須恵器	杯A5	外底	左	「門」	X44Y71V層	72	須恵器	杯B1	外底	中央ヨ	記号?	X32Y72V層
64	須恵器	杯A5	外底	左カ	—	道路部分表探	73	須恵器	杯B1	外底	中央	—	X32Y73V層
65	須恵器	杯A5	外底	中央	「門」	X30Y70X33Y70V層 X33Y71V層	74	須恵器	杯B5	外体	下	—	X29Y72X34Y70V層
66	須恵器	杯A6	外底	中央	「秦ヶ」	X40Y71V層	75	須恵器	杯B1	外底	左カ	「上ヶ」	道路部分表探
67	須恵器	杯A2	外底	中央	「秦ヶ」	X32Y73V層	100	土師器	碗A	外底	中央	「土」	X32Y72V層
68	須恵器	杯A5	外底	中央	「秦ヶ」	X32Y74V層	101	土師器	碗B	内底	中央	記号?	X34Y70V層
69	須恵器	杯B1	外底	中央上	「秦ヶ」	X40Y71V層							

表2 墨書き・刻書土器一覧表

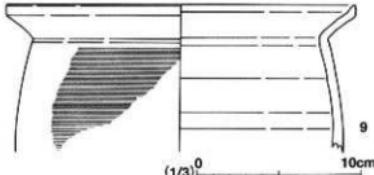
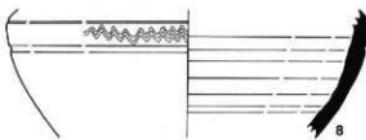
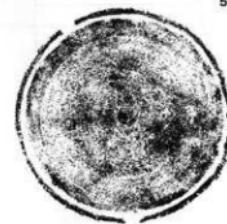
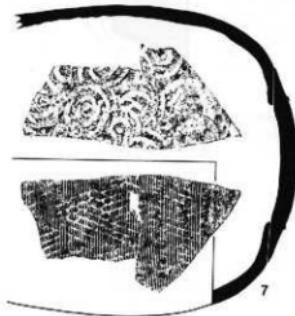
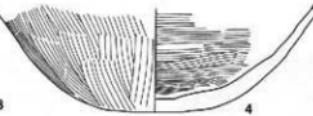
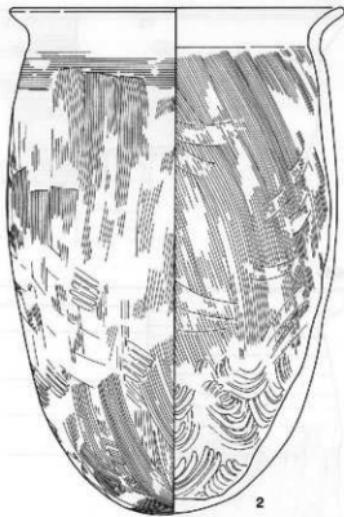
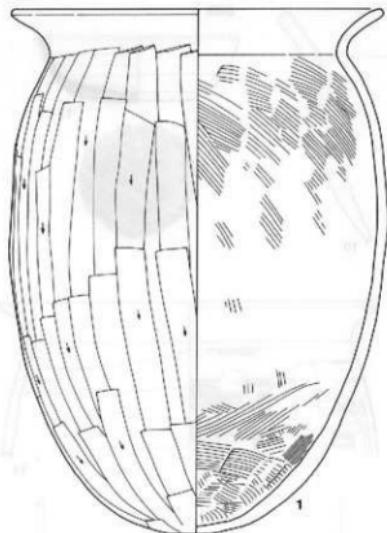
出土した墨書土器の器種及び墨書部位は、須恵器杯A底部外面7点、須恵器杯B底部外面6点、須恵器杯B体部外面1点、土師器碗A底部外面1点、須恵器蓋D口縁部内面1点で、刻書土器は土師器碗Aの底部内面である。他遺跡の出土事例と同様に器種は須恵器杯、墨書部位は底部外面が圧倒的に多い。墨書土器16点の内、文字の判読できるものは11点、いずれも單字句墨書で「嵐」1点、「土」1点、「門」3点、「秦カ」6点である。「門」は平成14・15年度調査区においても1点出土している。墨書土器が出土した遺跡において同じ文字が集中する例は少なくない。本遺跡でも「門」、「秦カ」が複数出土しており、遺跡内で特定の人物あるいは集団が使用していた可能性が考えられる。また、「門」は施設墨書の類であり、平成14・15年度調査区出土の「田屋」も施設墨書とすると、なんらかの関連性を有する可能性も考えられる。1点のみ出土している「嵐」、「土」に関しては、明瞭ではないが地名の可能性なども考慮されるものであろう。いずれも包含層出土遺物のため時期的に明確ではなく、現時点では單字句のみからの推論に過ぎないが、今後の資料の増加によって再検討する課題としたい。

(福山)

## 参考文献

- 池野正男 1998 「富山県出土の古代文字資料」「古代北陸と出土文字資料」
- 植木久美子 2002 「北陸の鳥形須恵器と円面鏡—任海宮田遺跡出土資料の紹介—」『富山考古学研究』第5号
- 内田亜紀子 2000 「越中姫負郡の古代土師器煮炊具一姫中町中名I・V・VI遺跡の堅穴住居出土資料を中心に—」『富山考古学研究』第3号
- 内田亜紀子 2002 「富山県の黒色土器—6～8世紀の県内資料を中心にして—」『富山考古学研究』第5号
- 内田亜紀子 2003 「富山県の黒色土器(2)—9～11世紀の県内資料を中心にして—」『富山考古学研究』第6号
- 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 1996 「五社遺跡発掘調査報告」
- 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2001 「埋蔵文化財調査概要—平成12年度—」
- 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2002 「石名田木舟遺跡発掘調査報告」
- 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2002 「清水戸II遺跡・中名II遺跡・持田I遺跡発掘調査報告」
- 財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2003 「中名I・V遺跡発掘調査報告」
- 武田健次郎 1998 「富山平野における遺跡群の展開」『富山考古学研究』創刊号
- 武田健次郎 2003 「狹義の富山平野における扇状地立地型集落の様相—7世紀～10世紀を中心として」『富山考古学研究』第6号
- 富山市教育委員会 2002 「富山市桜谷南遺跡発掘調査報告書Ⅲ」
- 富山市教育委員会 2002 「富山市向野池遺跡発掘調査報告書」
- 中野由紀子 2001 「任海宮田遺跡の墨書土器について—B1地区出土資料の紹介—」『富山考古学研究』第4号
- 中野由紀子 2002 「任海宮田遺跡出土の墨書土器(2) —平成13年度調査出土資料の紹介—」『富山考古学研究』第5号
- 婦中町 1997 「婦中町史」
- 婦中町教育委員会 1999 「富山県婦中町緊急防除特別土地改良事業に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書」
- 婦中町教育委員会 2004 「富山県婦中町砂子子I遺跡発掘調査報告」
- 森田利枝 2003 「任海宮田遺跡出土の墨書土器—平成14年度出土資料の紹介—」『富山考古学研究』第6号
- 山元祐人 1999 「古代越中の墨書土器・硯に関する覚え書き」『富山考古学研究』第2号

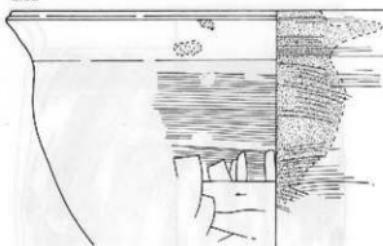
SI01



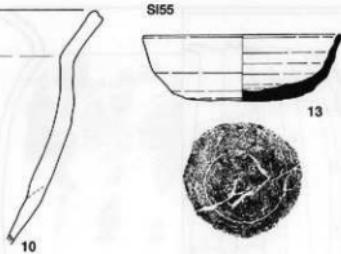
(1/3) 0 10cm

第10図 遺物実測図(1)(1/3)

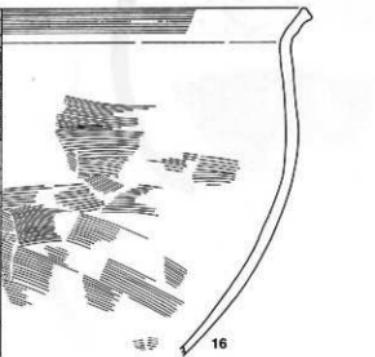
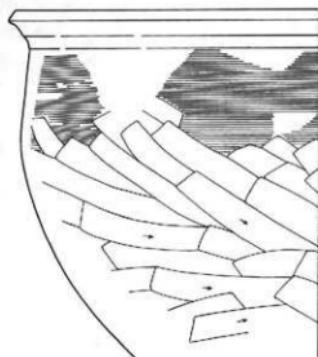
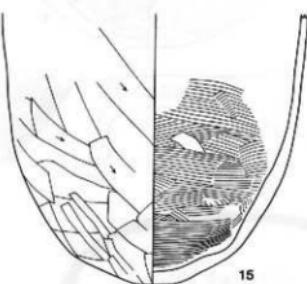
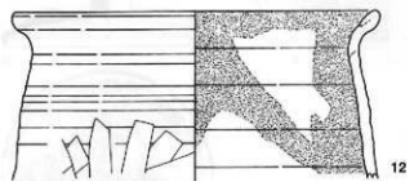
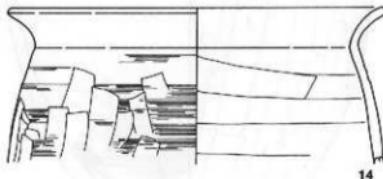
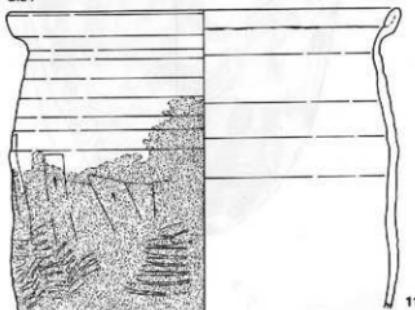
SI02



SI55



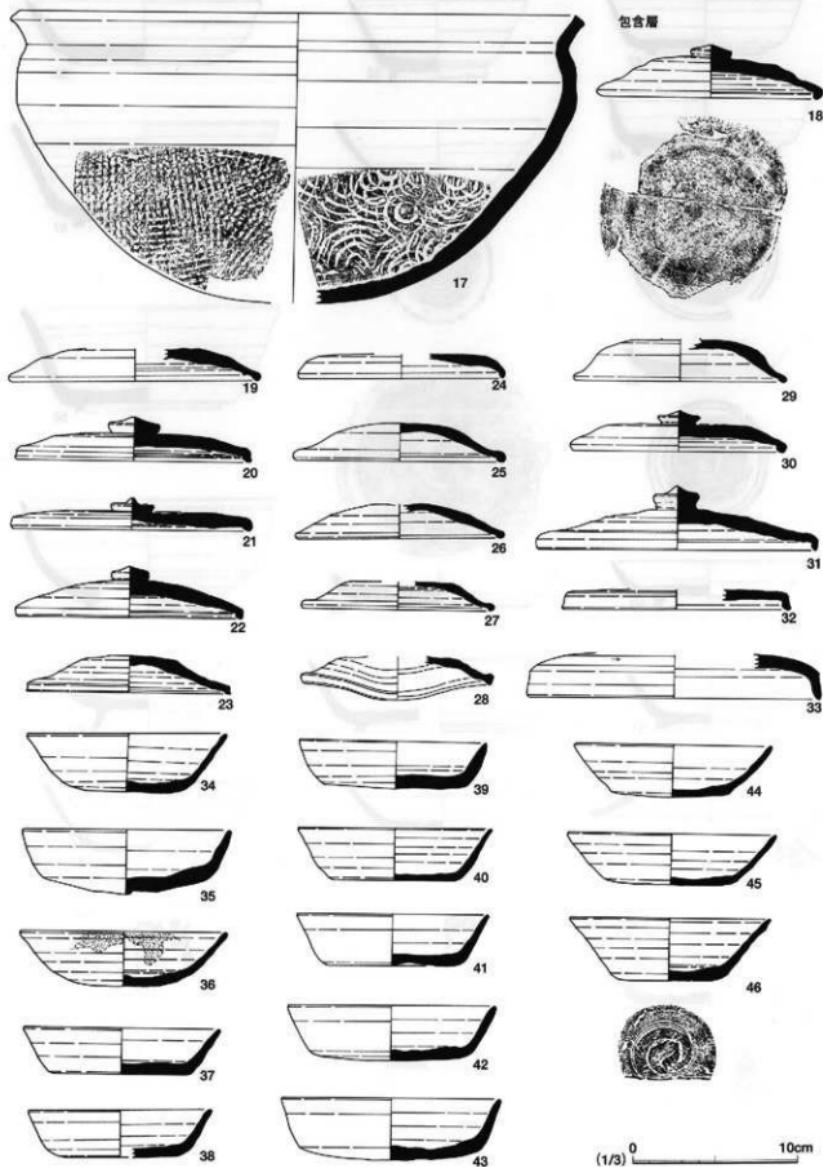
SI54



(1/3) 0 10cm

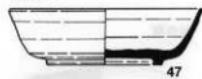
第11図 遺物実測図(2)(1/3)

SI55



第12図 遺物実測図(3)(1/3)

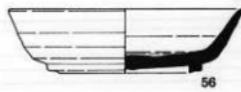
包含層



47



52



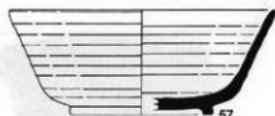
56



48



53



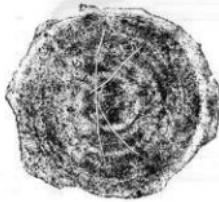
57



49



50



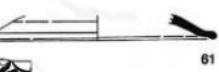
51



55



60



61



63



65



62



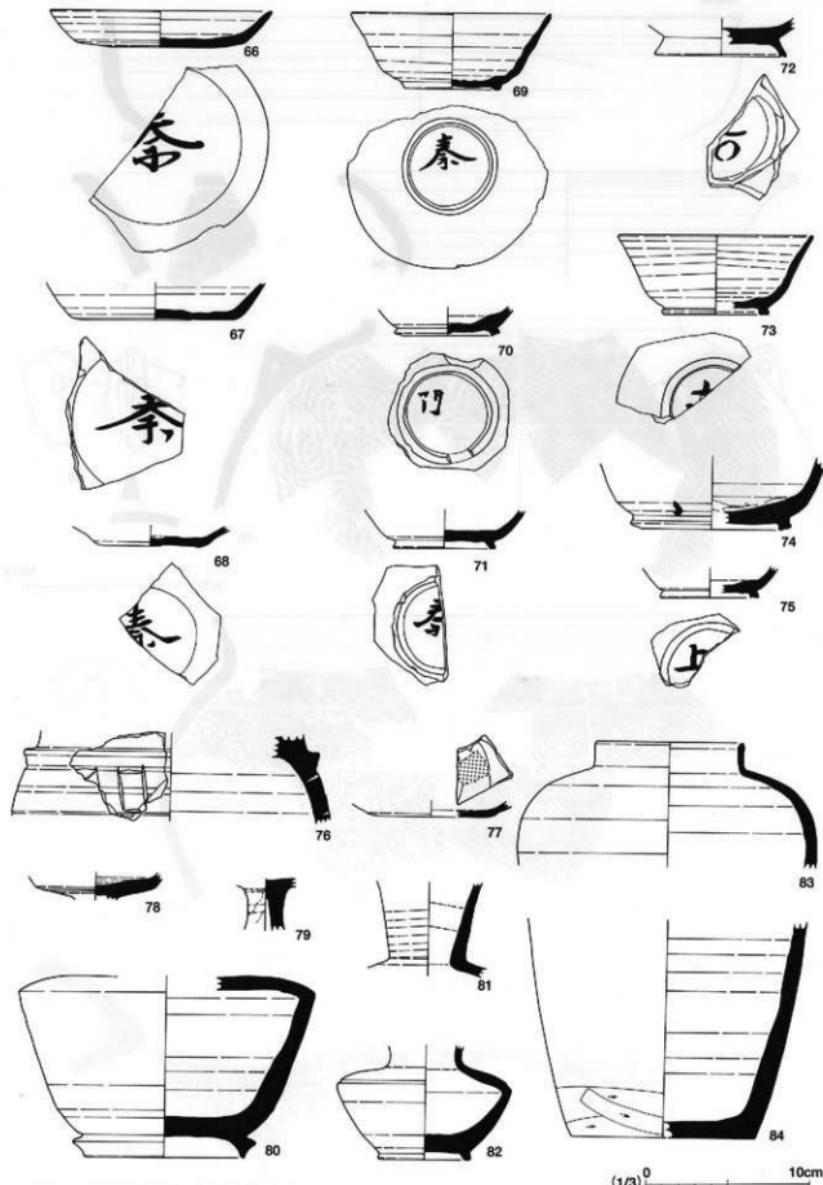
64



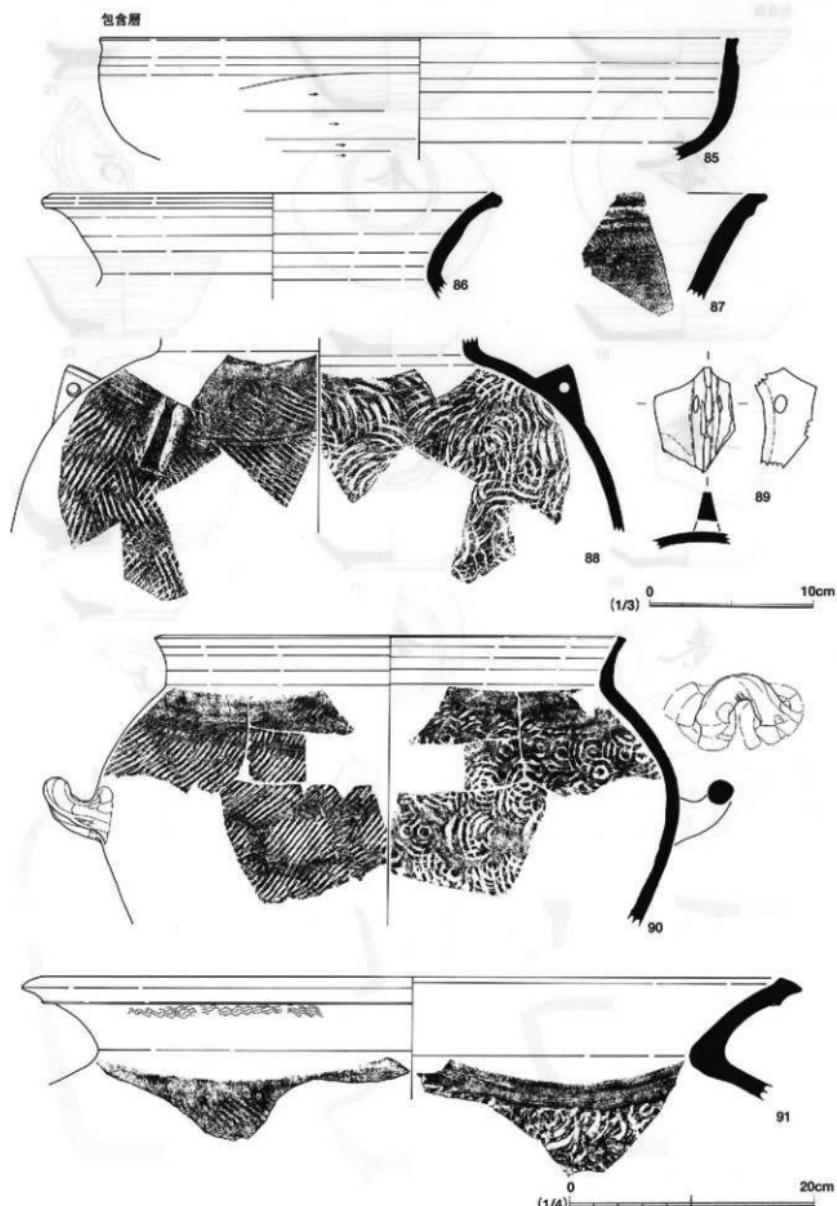
(1/3) 0 10cm

第13図 遺物実測図(4) (1/3)

包含層

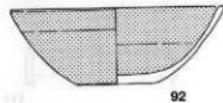


第14図 遺物実測図(5)(1/3)



第15図 遺物実測図(6) (90・91は1/4, その他は1/3)

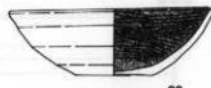
包含層



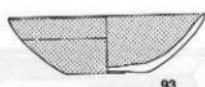
92



96



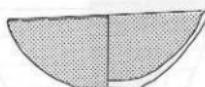
99



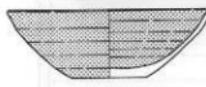
93



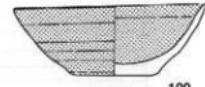
97



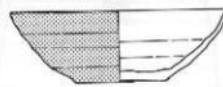
94



98



100



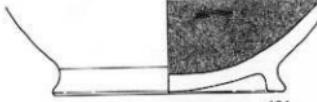
95



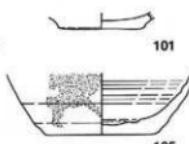
96



102



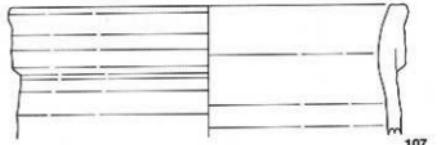
104



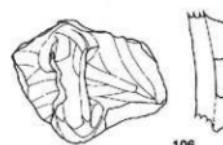
101



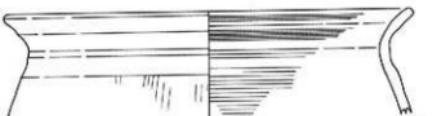
103



107



106

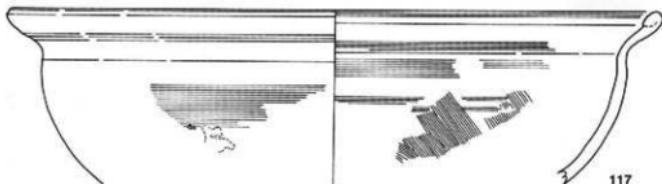
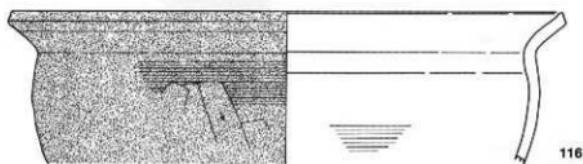
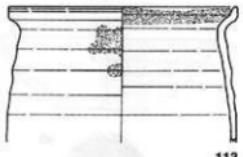
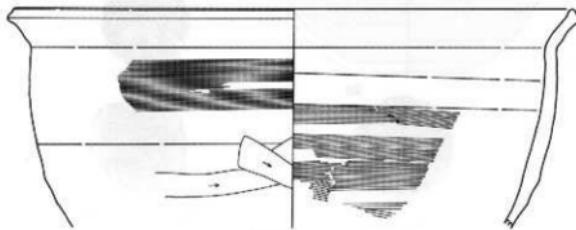
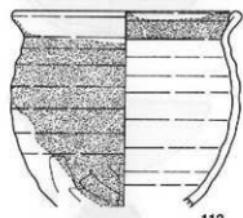
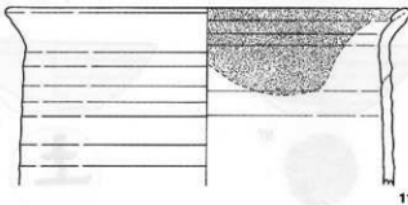
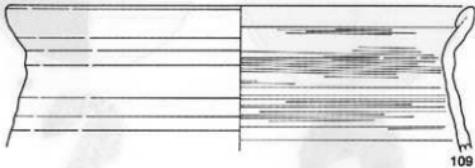


108

(1/3) 0 10cm

第16図 遺物実測図(7)(1/3)

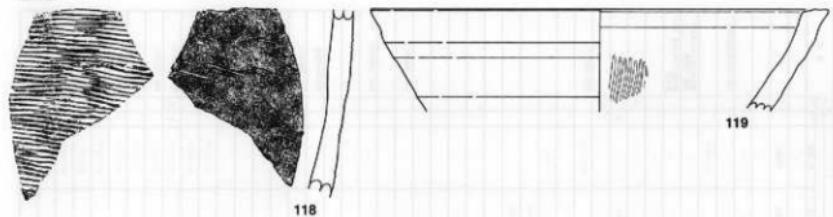
包含層



0 10cm  
(1/3)

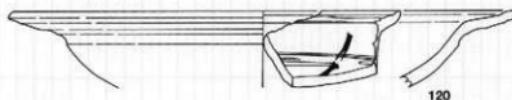
第17図 遺物実測図(8)(1/3)

包含層

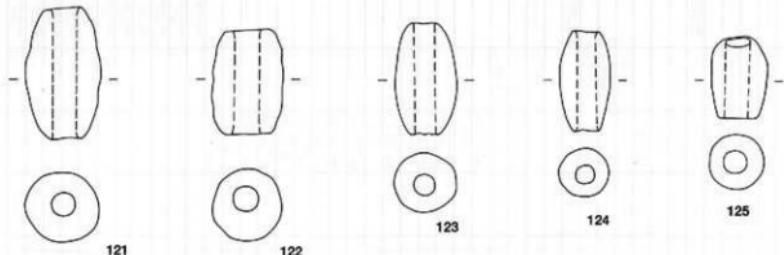


118

119



120



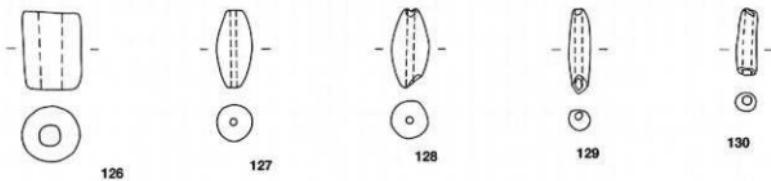
121

122

123

124

125



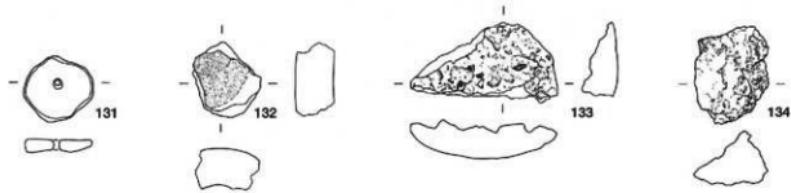
126

127

128

129

130



131

132

133

134

(1/3) 0 10cm

第18図 遺物実測図(9)(1/3)

表3 遺物觀察表(1)

表4 遺物觀察表(2)

表5 遺物關係表(3)

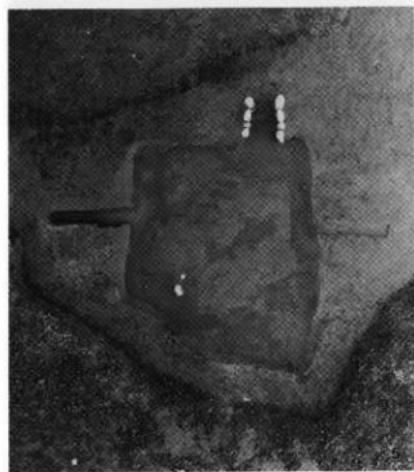
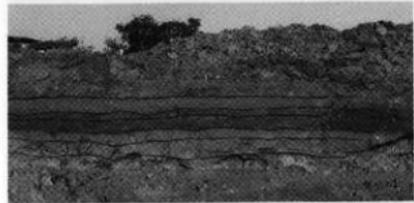
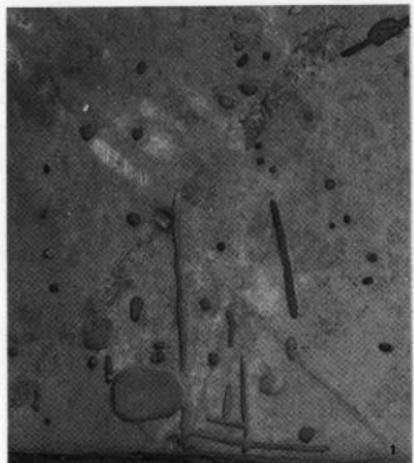
表6 遺物觀察表(4)



図版1 1.空撮写真(上が北) 2.空撮写真(上が北)



図版2 調整池部分南側検出遺構(右が北)



図版3 1.X35Y30周辺検出造構(上が北) 2.SD22~25付近検出造構(南より) 3.SK17付近検出造構(南より)  
4.調整池部分南側基本層序(南より) 5.SI01完掘(左が北) 6.SI01完掘(西より)  
7.SI01カマド遺物出土状況(西より)



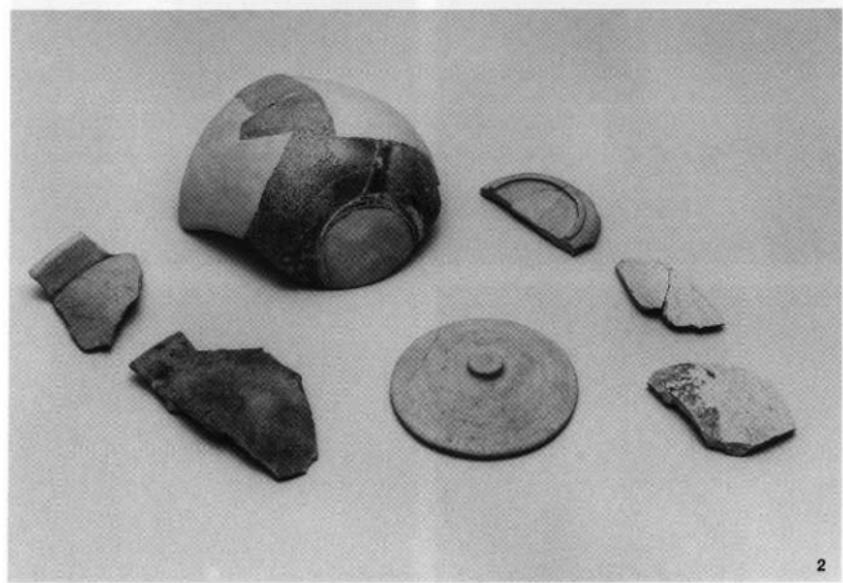
図版4 1.SI01カマド断面(北西より) 2.SI01カマド完掘(西より) 3.SI02完掘(左下が北)  
4.SI02遺物出土状況(西より) 5.SI02遺物出土状況(北西より) 6.SI02カマド断面(南より)  
7.SI02カマド完掘(北西より)



図版5 1.道路部分検出遺構(左が北) 2.道路部分検出遺構(北より) 3.SI54遺物出土状況(北西より)  
4.SI55遺物出土状況(西より) 5.SI55カマド遺物出土状況(北西より)



1



2

図版6 1.SI01 出土遺物 2.SI02 出土遺物

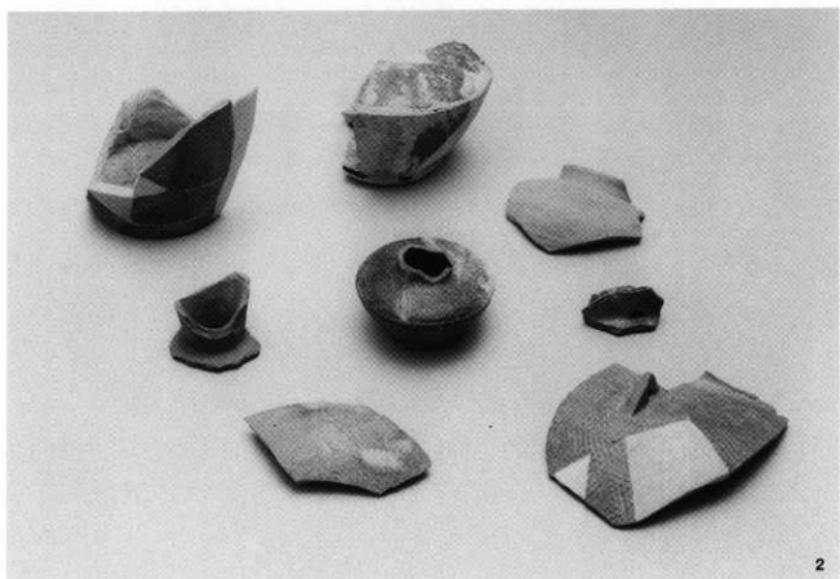


1

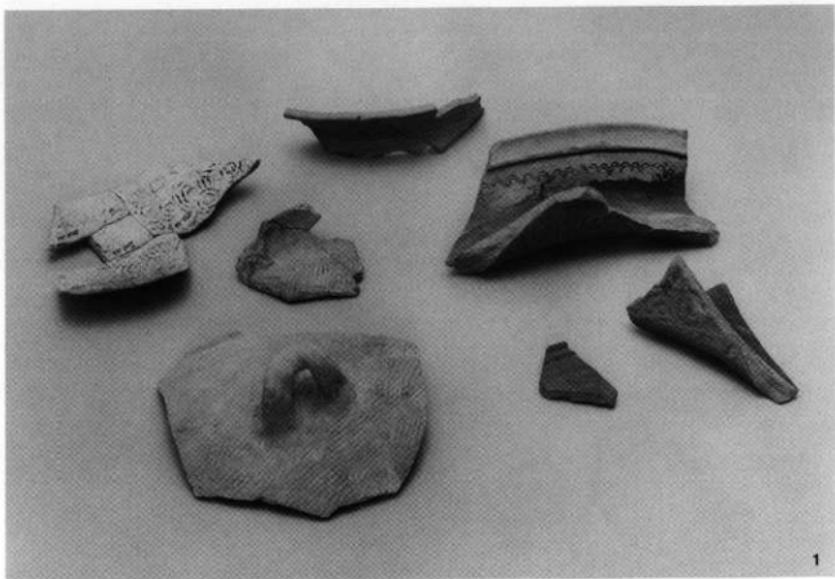


2

图版7 1.SI54 出土遗物 2.SI55 出土遗物



图版8 1.包含层出土遗物(1) 2.包含层出土遗物(2)



1



2

图版9 1.包含层出土遗物(3) 2.包含层出土遗物(4)



1



2

図版10 1.墨書き土器・刻書き土器・円面鏡・朱付着土器集合写真  
2.土錘・坊鍤車・羽口・鉄滓・珠洲・陶器集合写真



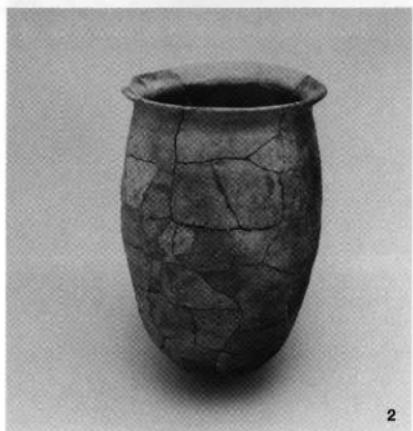
1



13



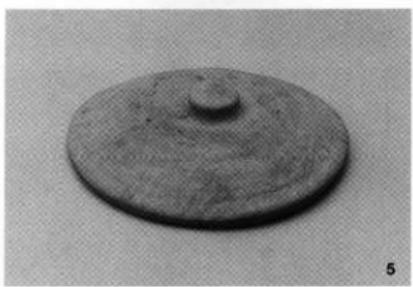
18



2



23

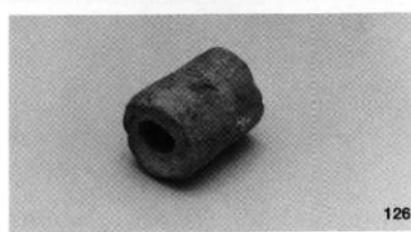


5



25

図版11 出土遺物写真 (1)



図版12 出土遺物写真（2）

## 報告書抄録

ふりがな	とやまけんふちゅうまちすなごだいらいせきはくつちょうきほうこくに						
書名	富山県婦中町砂子田I遺跡発掘調査報告II						
副書名	砂子田地内宅地造成に先立つ埋蔵文化財発掘調査報告						
編著者名	細辻嘉門、福山俊彰						
編集機関	山武考古学研究所 〒286-0045 千葉県成田市並木町221番地 Tel 0476-24-0536						
発行機関	婦中町教育委員会 〒939-2727 富山県婦負郡婦中町砂子田1-1 Tel 076-465-3113						
発行年月日	西暦2005年3月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
すなごだいら 砂子田I遺跡	とやまけんねいぐん 富山県婦負郡 ふちゅうまちすなごだ 婦中町砂子田	362 122	36度 38分 45秒	137度 09分 51秒	20040809 ～ 20041015	2,472m <sup>2</sup>	砂子田地内 宅地造成
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
砂子田I遺跡	集落	古代 近世	住居跡 溝・土坑 噴砂	4棟	古代土器・須恵器・ 土錐 羽口・鉄滓 中世珠洲焼 陶磁器		

### 富山県婦中町 砂子田I遺跡発掘調査報告II

平成17年3月31日

編集 山武考古学研究所  
 千葉県成田市並木町221  
 発行 婦中町教育委員会  
 富山県婦負郡婦中町砂子田1-1  
 印刷 株式会社文化総合企画